

## (1) 保存地区の概要

地区名	桜川市真壁
種別	在郷町
面積	約17.6ヘクタール
選定年月日	平成22年6月29日

### 特徴

桜川市真壁伝統的建造物群保存地区は、戦国期を起源としつつ、近世初頭に成立した町割をよく残し、町並みには、蔵造や真壁造の町家を主とする近世後期から近代にかけての多様な伝統的建造物が残り、筑波山北麓に栄えた在郷町の歴史的風致を今日によく伝えている。

### 選定による効果

当地区では、登録有形文化財制度を活用し、平成11年から17年にかけて104棟の歴史的建築物を文化財として登録、平成21年に桜川市歴史的風致維持向上計画を策定し、平成22年には中心部が国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された。

伝統的な町並みを活かして住民有志により始められた「真壁のひなまつり」は、急激に来訪者数を増やしていったが、選定によって観光地として一般にも認識され、複数の民間まちづくり団体が設立され、新たな活動を行っている。

平成23年には東日本大震災により甚大な被害を受けたが、伝統的建造物群保存地区制度を利用して災害復旧事業に取り組み、地区周辺の登録有形文化財も含めて殆どの歴史的建造物を残すことができた。

## (2) 保存地区のあゆみ

平成11年度(1999)	登録有形文化財制度の活用を開始
平成13年度(2001)	「地域資源活用型」まちづくりモデルプラン策定調査を実施
平成15年度(2003)	住民有志が「真壁のひなまつり」を開始
平成15年度(2003)	真壁地区を中心に伝統的建造物群保存対策調査を実施(～17年度)
平成16年度(2004)	都市再生整備計画事業として、来訪者駐車場の整備、電線地中化、登録文化財の管理運営実験などを実施(～20年度)
平成20年度(2008)	「桜川市歴史的風致維持向上計画」認定
平成22年度(2010)	『重要伝統的建造物群保存地区』選定
平成22年度(2010)	旧真壁郵便局を公有化し、耐震診断を実施、保存活用計画を策定
平成22年度(2010)	東日本大震災により伝統的建造物の大半が被災、災害復旧事業に着手
平成23年度(2011)	公開活用事業により旧真壁郵便局をまちづくり活動の拠点として整備(～24年度)
平成29年度(2017)	全国伝統的建造物群保存地区協議会総会・研修会を開催

## (3) 保存地区の保存と整備

### ●主な事業

平成22年度	重伝建地区案内板2基、表示板1基設置 修景事業1件
平成23年度	旧真壁郵便局整備～24年度(公開活用事業)
平成23年度	災害復旧事業 2件(竣工)
平成24年度	災害復旧事業 12件(竣工)
平成25年度	災害復旧事業 15件(竣工) 修景事業1件
平成26年度	災害復旧事業 23件(竣工) 修景事業1件
平成27年度	災害復旧事業 8件(竣工) 修景事業3件
平成28年度	災害復旧事業 12件(竣工)
平成29年度	災害復旧事業 11件(竣工)
平成30年度	災害復旧事業 11件(竣工)
令和元年度	災害復旧事業 5件(竣工)



## (4) 保存地区の活用とまちづくり

### その1 観光客の増加とまちづくり

登録有形文化財の数が増えると徐々に観光客が増加

住民有志が来訪者へのお茶入れ等、おもてなしをはじめる

歴史的建造物を説明する案内ボランティアの育成をはじめる

住民有志が真壁のひなまつりを開始、観光客が増大

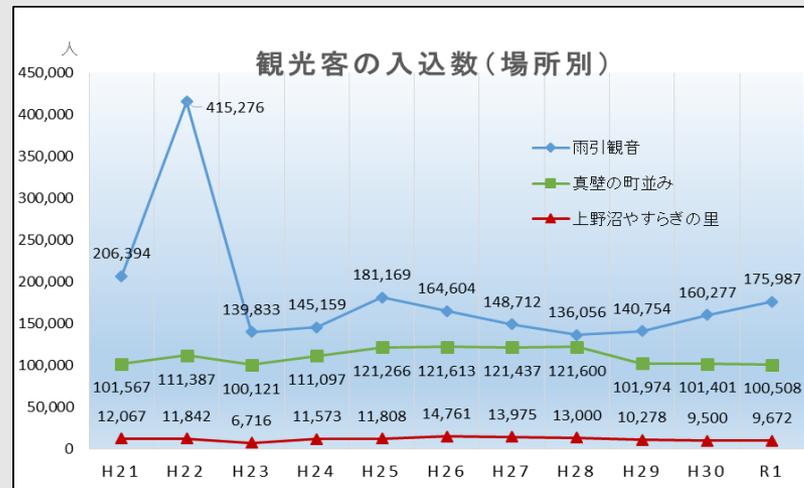
地区内の空地を公有化し観光駐車場の整備と修景工事を実施

中心部の公民館を地区景観に合わせた真壁伝承館に建て替え、資料館を併設して町並みの情報拠点として整備

重要伝統的建造物群保存地区選定により、歴史的な町並みを紹介する書籍やテレビ番組への登場回数が増加

地区中心部の旧真壁郵便局を公有化して観光拠点に整備

東日本大震災後、被災して空家となった登録有形文化財「高久家住宅」を公有化し、まちづくり活動の場として保存整備を実施



整備した旧真壁郵便局



観光駐車場の整備



高久家住宅の整備・公開



景観阻害建物の撤去と真壁伝承館の整備

## その2 周囲への波及効果

伝統的建造物群保存地区の周囲にも登録有形文化財が分布

歴史まちづくりに関する各種の施策は周囲を包含して実施

東日本大震災後は修理を機に地区周囲で建物活用が進展

「真壁のひなまつり」は、地区周囲の登録有形文化財はもとより一般の店舗から住宅にまで広がり、県内を代表する行事に成長



登録有形  
文化財の  
修理



所有者が新たにカフェを開店



祭りに行事で賑わいを創出



震災の翌年にも多くの観光客

## (5) 住民等の取組

町並みが注目されるようになると、空家になっている伝統的な町家などを利用して休憩所を設け、お茶やトイレの提供を開始

来訪者へのおもてなしとして各店舗や住居に雛人形を飾って建物を公開する「真壁のひなまつり」を開始

来訪者を意識した花飾りなど環境美化活動が活発化

様々な活動を行う住民団体が次々と結成され、まちづくり活動が活発化、平成23年には様々な住民団体の総体として「真壁 伝統ともてなしのまちづくり」が「サントリー地域文化賞」を受賞



住民が雛人形を展示、公開



ボランティアによる街並み案内



複数のまちづくり団体が結成



住民総体でのまちづくり活動